

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー一部報第 22 号 (10 月 21 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

選手権新東戦 実力通りの大敗

10月18日(土)、19日(日)高校サッカー選手権山形県大会三回戦・準々決勝が開催されました。山東の三回戦の相手は新庄東。部報前号にて書いたように、今年の新東は1年生から出場し続けたタレントたちの「完成学年」であり、タレントが綺羅星のごとくいる。間違いなく苦しい試合になる、順当に行ったら明らかに山東劣勢とは思っていました。ただ、山東も今年Y2Bで優勝し、来期はY1を戦う。「粘る試合展開に持ち込めれば、山東勝利の可能性もあるはず」と信じて庄内町に赴きました。場所は庄内町八幡スポーツ公園。去年完成した人工芝ピッチがあるところ。人工芝でも県内最新なので楽しみにしていました¹。ありがたいことに、いつも通り清野OB会長²、後藤報道局長は遠方での試合ながら駆けつけて下さる。また、ありがたいことに多数の保護者も駆けつけて下さる。13:30キックオフ。

試合が始まると、新東の出足の良さを感じる。やはり選手権、気合の入りが違う。そして、その気合いに押される形で、山東の選手の凡ミスが連発される。特にDFの凡ミスは失点に直結するだけに試合開始直後から冷や冷や。CBとして出場の故障明けシャモジは、コンディションが上がっていない様子。というか、故障でblankがあったため、去年までのシャモジに戻ったイメージ。今年のリーグ戦後期はシャモジのプレーが攻守にわたり安定していた、冴えていたので、かなり助かっていたが、去年までのようにシャモジにボールが渡るたびに観ている方も焦る。そして、ワタコー、シュンの両SBも本来のプレーが全くできていない。元からの技術・判断力の低さと言ってしまえばそれまでですが、新東の圧力の前に落ち着きを失っている様子。もう一人のCBタツルも、うろたえる守備陣を一人で立て直すまでの働きができない。とまあ、DF陣の不出来について触れたが、そうになってしまう必然性があった。実は、10月頭の進学校大会でGKサブローが右足を捻挫してしまい、右足で蹴れない、素早く走れない状態が続いていた³。よって先週も、ゴールキック時、フリーの選手が見つからない場合は仕方なくCBタツルがロングフィードしていた⁴。1週間経つ

¹ ちなみに、今年中に、たしか「市陸」が完成予定なので、完成すると、お膝元の市陸が最新となります。学校行事の代休時に天童の人工芝で一日練習するのは山東サッカー部の恒例ですが、来年からは市陸で実施されることでしょう。

² 大会プログラムでは総監督という肩書です。それを伝えると、会長「監督される方が〜」。今野「いや、監督を監督する立場です」。

³ 足首を縦に伸ばせない状態。

⁴ GKがゴールキックを担当しないのは、中学生以下ではまああるでしょうが、高校生以上ではまず見かけません(すくなくともY2以上では見ません)。サブローも、入学当初は全く蹴れなかったですが、2年生になり、本当に飛ばせるようになり成長を感じさせていました。GKではなくFPがゴールキックを蹴ると、オフサイドラインがゴールエリアまで下がるため、相手選手がオフサイドになりにくくなり、

て（進学校大会からは2週間経って）そろそろ治るだろうと思っていましたが、治るどころか悪化しているとのこと。この一週間右足で蹴ってはいないのでしょうが、GKとしての練習は続けたので、本来運動させてはいけない足首が治るどころか悪化したのでしょう⁵。ということで、キャッチしたボールは常にスローでのハンドパス。できる場合はゴールキックもサブローからDFへショートパス。すると低い位置からDFがビルドアップしなければならないが、**ビルドアップは、強さ・堅さではそこそこだが巧さには欠けるクラシックなDFである山東DF陣の苦手とするところ**。Y2Bでも地区新人でも、強豪と当たるときの山東は、低い位置でのリスタートでは常にロングフィードし、陣取り合戦し、ヘディングの争いをしてから攻撃のチャンスをつかんでいた（もちろんつかめないことも多い）。こういうアバウトなサッカーを繰り返してきたツケが回ってきたというか、パスワークにこだわって選手を育ててこなかった指導者の指導の問題が選手権で露呈したというか。DFだけの問題ではもちろんありません。MF、FWもパスを受けることができていないし、競り合いでも勝てていない。ボールが渡っても確保できない。ということで、長い前置きをしましたが、**「GK⇒DF⇒相手」or「GK⇒DF⇒MF,FW⇒相手」という流れで低い位置で相手にボールを供給し、試合開始から面白いように新東のショートカウンターが決まる展開。前半8分までに3失点！！** 情けないミスが立て続けに起こっての失点で、単純に実力差と言えますが、山東サイドのピッチであれだけボールロストすれば相手の攻撃が加速するというもの。3失点してからは、新東も少し安心したか、山東の時間が多くなり、得点の匂いも感じられるようになる。ただし、ムンタリのスピード、(3失点後DFからFWにポジションチェンジした) タツルの突進力という個の力に頼った攻撃であり、山東の攻撃が新東ディフェンスを混乱させたとは言えず。「前半のうちに1点返しておけばかなり違うがな〜」とのベンチの願いも空しく、前半0対3で折り返す。

「4点返すなど思わず、『後半は勝つ』という気持ちでまずは1点取りに行こう」と声をかけ後半に臨ませる。しかし後半、山東の攻撃が見せ場を作るというより、中途半端な攻撃が新東の鋭い縦パスを呼び込む展開。**正直、新東はもっと横パス・バックパスが多いチームと**思っていたが、**縦パスできる状況を逃さない何としっかりとした戦術眼の持ち主が多いことか**。結局さらに2失点し万事休す。

いや〜、それにしても新東は強かった。これが正直な感想です。もちろん、《スキルの差をスコアの差にしない粘り強い戦い》を身上の一つとする山東としては、もう少し粘れなかったものか、反省点は多い（特に序盤）。ですが、攻守にわたり違いを見せつけられたことは事実。新東の選手、一人ひとり簡単にボールを奪われないし、パスが正確！ DFからFW足下へのミドルパスも悉く通るし⁶、裏へのフィードも質が高い。混乱を深める山東DFラインは、裏に蹴られる心配がない状況⁷でも相手選手の裏へのランニングに引きずられラ

反撃を受けやすくなる。ちなみにこの日サブローは、キャッチしたボールをスローできずショートパスもできない場合は、左足でパントキック（手で持ってから蹴るキック）しました・・・。

⁵ 登録された中には1年生GKクロサカもおりますが、まだ？公式戦に出場するレベルではない。思えば、サブローも、そして3年のケツツン（引退）も、1年生のこの時点では公式戦に出場するレベルではありませんでした（ケツツンが1年のときはFPを急遽GK登録しサブGKとして備えさせ登録すらさせませんでした）。その「非情采配」が功を奏したか、ケツツンは秋から冬にかけてグングン伸びてくれました。クロサカ君（い・ち・お一経験者）はどうなるのでしょうかね〜。**少なくとも今は「我らがGKサブロー」に対して「どこかのクロサカ」です。**

⁶ 山東の前からのプレスが甘いとも言えますし、山東DFの縦へのボールへの圧力が弱いとも言えます。

⁷ 横パス・バックパスの最中、味方選手が相手ボールホルダーとの間を詰めており相手が簡単に蹴れな

インを乱すシーンが度々あった⁸し、ロングボールの対処を誤りヘディングをかぶったり(要はヘディングの空振り)、ルーズボールの処理をもたつき相手に奪われたりするシーンの連発。これでは勝てません。また、新東の選手のレベルの高さは、守備でも光っておりました。山東ドリブラーに対し、簡単につっかけず慎重に対処するところと間合いを詰め寄せるところの判断が的確。そして、時間をかけさせたところで、MF陣の戻りを可能にし、複数人で囲んでしまう。主に新東CBの守備力の高さとボランチの守備意識の高さ⁹を感じました。

ということで、「**本番もっとチームとしてうまく対応できなかったか**」というレベルの反省を超えて、「**本番までにもっと一人ひとりのサッカー選手としての能力を引き上げることができなかったか**」を反省すべき、監督として負うべき責任はそちら、と感じております。バスで帰って来て、選手たちには、「来春までに**個の能力**を上げなくてはいけない」と話をしました。**止める、蹴る、運ぶというボールを使った基本技術**のところでの覚束なさがあったのは、レベルの高い相手にはごまかせないことを思い知ったこの選手権。完敗し悔しい気持ちはありますが、下手に良い試合をしての敗戦により猛省しないよりは、よかったのではないかと受け止めています。これから県新人があり、結果を出すべく頑張るのは当たり前ですが、来期を見越し、長期的に考えてやるべきことから逃げない姿勢も重要でしょう。**今期の山東は死んだ。これからは明日の生(来期の活躍)に向けて活動していきます。**

遠いところまで応援ありがとうございました。

来週は、10月25日(土)に選手権準決勝を勉強しに全員で鶴岡に行ってきます(第一試合と第二試合の間には、鶴南と小真木原の周りを長距離走で対決してきます)。26日(日)は、保護者の皆様、いも煮会宜しくお願い致します。保護者の皆様には食材の調達等をお願いし、**ネギを切ったりすること含めいも煮製作は部員にやらせたい**と思いますので、宜しくお願いします。**あと部員の諸君、言われなくとも宴会芸の準備はしておくように。**

♪連絡♪

先日見知らぬ携帯電話の番号から着信があり、出ると、**準OBのタナイ君**(東京外国語大学3年)からのもの。高校生時代から国際審判員をめざしており、高校2年生で3級審判に合格した彼ですが、このたび関東での活動が認められ、2級審判員に合格したとのこと。4級と3級の違いもかなりですが(4級は実技試験なし)、3級と2級の違いもかなりのもの。2級になると、都道府県単位の大会ばかりか、広域ブロック大会(ex 関東大会)でも審判できます。国際審判員になるという夢を捨てずに、頑張っているとのこと。

活躍はうれしいし、報告して来てくれたのもうれしい(卒業後初めて話す)。そして、サッカー部を途中で辞めた生徒からの連絡というのもまたうれしい。「今野先生の下でサッカーをし、理不尽な指導に対して免疫をつけてもらったおかげで、インス

い時、ボールホルダーが後ろを向いている時(ボディシェイプが悪い時)。

⁸ ラインを不必要に乱してしまうと、相手の縦パスに対して相手選手の前に入る積極的なディフェンスができなくなります。

⁹ そもそも自ゴール方向に戻りボールに近づく走力で優れており、相手FWをDFと挟む意識の足りない(DFに任せ危ない状況を放置しがちな)山東ボランチとの違いを感じました。

トラクターの理不尽な指導にもついていけました」とはダイレクトには言いませんでしたが、彼の発した「今野先生と遠藤先生（当時の顧問 現高畠高校剣道部顧問）のお陰で2級取れました」との発言の意味は、そのように自虐的に聞こえてきました（それくらい大したことやっていない）。

彼は、タダの代（山東62回卒）で、去年正月遠征に帯同してくれたオーツキ君やDゾー君と同じ年であり、タツル兄のヒロアキ君とも同じ年。「関東に来た時など山東サッカー部に何か協力できれば」と言ってくれましたが、本当にうれしいことです。これからの活躍を山形から楽しみにしていますよ。国際審判員目指し、頑張れ！